



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

THE Y'S MEN'S CLUB OF K O B E

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

CHARTERED FEBRUARY 17 · 1930



- ブラザークラブ：高雄（台湾） チェンマイ（タイ） 米子（西日本区）
- 国際会長主題：世を照らす光となろうー恵みを愛もて分かち合おう
- アジア会長主題：歳月はY'sをワイズ（賢者）にするー行動が活力を呼び覚ます
- 西日本区理事主題：先頭に立ってワイズの光を輝かそう、クラブで、地域で、国際社会で
- 六甲部部長主題：柔軟な創造で愚直に積極的なワイズライフを楽しもう
- クラブ会長主題：クラブの伝統を踏まえ、クラブの新しい「顔」を作るべく、それぞれの役割を楽しもう

2012年10月

B F 強調月間

今月の聖句

このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいか」と言われた。シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところに行きましょうか」

ヨハネによる福音書6章66～69節

10月例会

下記2プログラムを10月例会とします。

- ☆10月7, 8日 米子クラブ DBC交流会
7日(日) 交流会
場所：OUホテル(皆生温泉)
- 8日(祝) 瀬戸山陰部部会
場所：YMCA 米子医療福祉専門学校

- ☆10月21日 三宮ウェルネスセンター バザー
集合 9時
- 10月20日 バザー準備
集合 15時

10月誕生日おめでとう

- 18日 江口 かおり
20日 城 純一
22日 鶴丹谷 剛
23日 河合 睦文

9月在籍者	9月出席者	9月出席率
19名	メン 13名	68%
広義会員	メネット 10名	(含メイキャップ)
0名	コメット 0名	前月出席率
合計 19名	ゲスト 5名	57%
	合計 28名	

9月分BFポイント

切手	0円	現金	0円
本年度累計			
切手	0円	現金	0円

10月23日(火)第2例会 19:00～

- ◎年間計画の詳細について
- ◎各事業計画について
- ◎その他、協議事項、事務連絡など

第2例会でも、重要な議題を協議し決めてゆきます。都合をつけて出席をお願いします。

会長 進藤啓介 副会長 尾上尚司 会計 森 章一
書記 山本亮司 連絡主事 山本亮司

口座番号 三井住友銀行三宮支店 普通預金No. 1494643 名義人 神戸ワイズメンズクラブ 会計 橋本正晴
例会：第1例会 毎月第2火曜日 18:30 第2例会 毎月第4火曜日 19:00

会長メッセージ

『EMC』

会長 進藤 啓介

今年度が始まり、3カ月がたちました。1年をかけてEMCのベースを創るべく、まず8月、例年の暑気払い例会を変更し、EMC例会からスタートいたしました。六甲部のEMC研修会とも兼ね、また米村主任のスピーチと沢山のゲストを迎えての例会となり、私としてはクリスマス等の特別な場合を除いては、神戸クラブの例会としては初めての賑やかな経験ではなかったかと思えます。

8月例会時の米村さんのお話の中でも、EMCの原点は「クラブの健全な維持、発展」と、お聞きしました。この1年、年間計画のように、クラブメンバー全員参加で、また、それぞれが出来る範囲で積極的に小さな手造りのプログラムにチャレンジし、活動を進めていきたいと思えます。その活気、熱意が自然とクラブの「勢い」となり、人が集まり、結果、活動もさらに活発になり、さらに楽しいクラブ活動に繋がるのではないかと思います。

最近よく思い出します。「青春とは、人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」。サミュエル・ウルマンの詩の一部ですが、還暦を越え、仕事もひと段落した今になって、今まで以上に口にすることが多くなりました。

私の神戸クラブにおけるミッションは、私なりにこう考えています。「YMCAと共に、それに連なる、人、若人、子どもたちが希望を持って育つこと、育てること」。そのためにも、沢山のメンバーにクラブに加わって頂き、共に活動していきたいと思えます。

今、10月です。ここで、一つ提案です。12月のクリスマス例会を盛り上げ、一人でも多くのゲストをお迎えし、新しいメンバーになっていただく努力をしようと思えますが、いかがでしょうか。全員の力を結集してチャレンジしてみませんか！。

今年のクリスマスは イエスキリストの誕生日。又神戸クラブの再出発の日。

クラブからのお知らせ

▼五十嵐政二メン、かほるメネットが、芦屋クラブに転会されました。今後のワイズダムでの活躍をお祈りします。

▼江口満メンが、このたび退会されました。長年の活動に感謝します。なお、かおりメネットはメネットとして活動を継続されます。

▼11月例会は、11月3日チャリティランをもって当てます。出欠のご報告をお願いいたします。

▼10月7、8日、米子クラブDBC交流会、瀬戸山陰部会に、メン、メネットあわせて11名が参加することになりました。

▼第27回チャリティーゴルフ

日程：10月30日(火)

場所：オリムピックゴルフ倶楽部

(三木市細川町)

参加費：20,000円

9月29日ジャガイモ配達速報

9月29日(土)、ジャガイモファンドの配達を行いました。例年のように城メンのご厚意で青谷、ブルーバレーのガレージをお借りしました。

今年は、450箱を扱いました。

クラブこれからの予定

10月7、8日 米子クラブDBC交流会

10月21日 三宮YMCA国際バザー

11月 3日 チャリティラン

11月11日 世界YMCA、YWCA合同祈祷週

12月11日 クリスマス例会(予定)

1月12日 新春YYフォーラム

＜今月の聖句に添えて＞

イエスには十二弟子以外にも沢山の弟子（自称）がいて、イエスと行動を共にしていた。でもイエスのことはよく分らず、むしろ衣食住の必要を、時には奇跡的手段で満たしてくれる方ぐらいに思っていた。奇跡は一つの手段であり、イエスは神の子として福音を告げるのが使命であった。多くの弟子たちはそれを知って失望し、イエスを離れて行った。ペトロも神妙なことを言っているが、果たして十字架の時は如何であったか？
(山根貞夫司祭@神愛修女会・深和ホーム)

芦屋ワイズメンズクラブの スピリットを視た 第11回六甲部部会報告

大塚章信

「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思いだしなさい。彼の生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。」
(ヘブル書13・7)

9月8日、芦屋市の「ホテル竹園芦屋」において、西日本区各地から来賓・区役員をはじめ九部より、140名以上のワイズメン・メネットが参加し、六甲部部会が盛大に開催されました。

神戸クラブ参加者は、井出、鵜丹谷、大塚、長内、城、進藤、馬場の各メン、井出、長内、京極、城、名田、橋本、森、山本の各メネットでした。

上野恭男六甲部部長の開会の言葉と開会点鐘により部会はスタートしました。上野さんは、「今日の開会点鐘は、故飯田義雄メンがされるべきでした。」と万感の思いを込めて挨拶されました。飯田兄は、HY・学Y・市Yと、青少年期からYMCAとワイズに係わってこられたと聞いています。4月、キリストの受難日に、天に召されていかれました。そして、イースタの日に、芦屋西教会で告別の時を持たれたのです。

「・・・愚直に積極的なワイズライフを楽しもう！」上野部長の主題"SIMPLE HONESTY"は、正に飯田兄の意志と心を引き継がれたものと受け止めています。

部会プログラムも、一部で礼拝・式典、二部では、プテイ・タ・プテイ女性コーラスの演奏

を楽しみ、三部は懇親会、アピールタイム、部会始まって以来の初プログラム「8クラブ対抗歌合戦・みんなで歌おう」が開催されました。ちなみに、神戸クラブは長内メンの発案で「サライ」を大合唱し、みごと準優勝に輝きました！オメデトウ！

飯田兄が親しまれた「懐かしい日本の歌曲集」より100曲が編集され、大野勉、岡山泰典、鵜丹谷剛3人トリオのギター演奏で、これも大変盛り上りました。

芦屋クラブ会長島田恒氏より、閉会の挨拶と数年前に発行され飯田兄が愛読された「ハチドリのひとしずく」から、次の個所が朗読され閉会となりました。

「森が燃えていました。森の生き物たちは、われ先にと逃げていきました。でもクリキンデイという名のハチドリだけは、いったりきたり、口ばしで水にしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落していきます。動物たちがそれを見て『そんなことをしていったい何になるんだ』と言って笑います。クリキンデイはこう答えました。『私はわたしにできることをしているだけ。』」

故飯田義雄メンの「愚直な歩み」・ボランティア精神が、芦屋クラブに確かに引き継がれているということを感じることができた素晴らしい部会の時でした。

9月第1例会メネットナイト報告

ゲストスピーカー・日本画家・志村正氏

「描き続けて45年・・・芸術で何ができるか」今回は、京都ご出身の日本画家・志村正氏をお迎えし、お話を伺いました。画家を志され、京都美大に入られた若き日々、修行時代の事、（ご一緒にお越し下さった）奥様との思い出、また、愛する人を失った方に小さな花の絵を贈り、それがその方の心を慰め、癒すのに役だった事、そのことから、まさに「芸術で何ができるか」を考えさせられた事など真摯に語って下さった。次に「水を通してものを見る」をテーマに描かれた「京の川」シリーズの絵をスライドで見せて頂いたが、川面を真上から見たその画面は、川の流れと水底の石、漣を捉え、京の川を、観る者に強く印象付ける。そして同じくスライドで拝見した数々の花の絵は心を穏やかに鎮めてくれる。スライドや写真ではなく、実際の画面をゆっくり拝見したいと心から願った。現役でご活躍の日本画家のお話を身近にお伺いする事のできた貴重なメネットナイトであった。



Kobe Menettes

Declared March 10·1965

志村先生との出会いから

佃 治子

9月のメネットアワーでスピーカーとしてお話し下さった画家・志村正先生との出会いから25年程になる。

・山茶花の絵との出会い

「この山茶花の絵を描かれた方は、どんな方ですか？」大丸デパート心齋橋店で、新聞社の大阪社会事業団の歳末チャリティー展の会場でのこと、数ある著名人達の絵画、陶芸、染色、書など芸術作品を楽しみ乍ら新聞社の方に尋ねた。

「素晴らしいでしょ。この画家は京都在住の若い方で、今回初めて出品して頂きました」と。

「何処の場所からも目に留まります。とても温かみで、自然な心で輝いているように思います」その絵の前で、何度も足を止めていた。もとより、展示作品を購入することも入札することも、全く頭になく誘われるまま会場に行ったのに。

「私、入札させて頂きますね」その作者が志村先生でした。その日、家に帰り着いてしばらくして電話があった。「志村と申します。会場で新聞社の方とお話しされているのを耳にし、新聞社の方に電話を伺いました」。後日、新聞社からその作品を私が落札したとの連絡があった。(昨年のクリスマスによく利用するフレンチレストランで、ディナーと室内楽の演奏会があり、志村ご夫妻を、お招きした。その時、この山茶花の絵をお店に掛けてもらっていた。ご夫妻はとても驚かれ、喜んで下さった)



この絵がご縁で数々の展覧会に伺い、芸術の組織のこと、方向性について話し込んだこともあった。聖徳太子ゆかりの奈良明日香の橘寺の天井絵(山桜と花水木)は、自然の光の中で、友人達を案内する度に姿が変化していくのが楽しい。山茶花との出会いから、家族でのおつき

あいが始まり、食事会をしたり、遊山に出かけた——この時の昼食は、いつも恵子夫人のお手製のうれしいお弁当。メネットアワーで志村先生が動物園にスケッチに通っている時、おつきあい中の恵子さんからお弁当がよく届いたと話されてましたが、それは今も変わりなく続いている。

・野薊の絵

私の父が、山で出会った野薊の花が心に残り、大好きだと話しているのを聞いて、ある日、野薊の絵をプレゼントとして届けて下さった。その絵は今、大阪の家の玄関に掛けている。父が亡くなって22年になるけれど、その父がヴァイオリンに親しんだり、登山を楽しんだりしている姿が、この絵を通して浮かんでくる。志村夫妻がいらして下さった時「あゝ、うれしいなあ！玄関に飾って呉れていて」と。私にとって父との語らいの大切な絵となっている。

・芙蓉の花の屏風

この9月17日、京都国立博物館のお茶室「堪庵」で、席主を館長とした博物館所蔵のお道具(美術品)での特別茶会が開かれた。「本席」でのしつらえは言うに及ばず、「小間」のお席にも平安時代の石山切(伊勢集)の掛軸が掛けられていた。展覧会場での展示とは異なり、お席の自然の明かりの中で拝見する芙蓉の花は本当に匂い立つような美しさだった。

・ファンドの広がり

昨年、長内メネットに恵子夫人製の「山椒ちりめん」を渡したのが切っ掛けで始まった山椒ファンド、そして、メネットアワーでのスピーカーとして繋がった。

長谷川等伯の襖絵保全の為とりはずされた後に、志村先生達が描かれた高台寺園徳院の襖絵を拝見しながら、京の散策も楽しみにしている。

橘寺往生院天井画
「花水木」

